

心房細動カテーテルアブレーション施行施設の先生方へ

現在、日本全体で年間 5 万件を超える心房細動カテーテルアブレーションが施行されています。従来の高周波カテーテルアブレーションに加えて、クライオバルーンアブレーション、ホットバルーンアブレーションなどのバルーンを用いた肺静脈隔離が広く普及しつつあることが手術数の増加に寄与していると考えられますが、一方で重篤な合併症の発生が全国から報告されています。

その中でも特に、**空気塞栓による脳梗塞や心筋梗塞の発生および、食道への傷害（左房食道瘻）**は、患者さんの生命に関わる重篤な合併症とされています。

侵襲的手技であるカテーテルアブレーション手術においては、症例数に応じて合併症の発生するリスクがあり、それはたとえ手技自体に問題がなくても生じる可能性があります。だからこそアブレーション手術に携わる術者の先生方におきましては、合併症を生じさせないように細心の注意を払って慎重な手技の遂行に全力をあげていただきたく、ここに注意喚起をいたします。

この度、日本メドトロニック株式会社からクライオバルーンアブレーション手術における注意喚起書が出されました。続いて、東レ株式会社からもホットバルーンアブレーション手術における注意喚起書が出される予定です。アブレーション術者の先生方におかれましては、治療適応およびカテーテルメーカーの推奨使用法に沿って注意深い手技を行い、患者さんに安全なカテーテルアブレーション治療を施すようお願い致します。

平成 29 年 11 月 30 日

日本不整脈心電学会アブレーション委員会委員長 山根禎一
日本不整脈心電学会理事長 平尾見三